

# 6月日銀短観は総じて良好

## 1 日銀短観 (2026年6月調査) で見べきは「設備投資」

景況感は改善も、先行きは慎重。企業は利益を「投資」へ回し始めている

発表日：2026年7月1日 (水) 8:50  
出所：日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

### 業況判断DI (全規模・全産業)

最近	先行き
<b>18</b> (前回 18)	<b>11</b> (前回 11)

- 「最近」は改善 (18) も、「先行き」は11と慎重姿勢が続く
- 製造業・非製造業ともに足元は堅調

景況感は改善も、先行きは慎重

### 設備投資計画 (前年度比)

全規模・全産業	大企業・全産業	大企業・製造業
 <b>+6.8%</b> (前回 +4.7%)	 <b>+11.5%</b> (前回 +7.2%)	 <b>+10.1%</b> (前回 +5.6%)

全体で+6.8%、大企業では二桁成長  
企業は稼いだ利益を「投資」に向けた姿勢を維持

(注) 設備投資計画は、土地を含むベース。修正率は前年度比の修正値。

### その他の注目ポイント

- 雇用不足は依然として深刻**  
雇用人員判断DI (全規模・全産業) **▲37** (前回 ▲38)  
人手不足が続き、省力化・生産性向上投資を後押し
- 想定為替レートは上昇**  
2026年度 (全規模・全産業) 152.57円/\$  
(前回 150.10円/\$)
- 企業はインフレの定着を見込む**  
企業物価見通し (全規模・全産業)  
1年後：+2.3% | 5年後：+2.1%  
「デフレには戻らない」と認識



まとめ：企業は現状に前向きも、先行きは慎重。利益を「投資」へ回す流れが加速している

## 2 短観から見える日本企業の変化と、下期相場のテーマ

「貯める経営」から「使う経営」へ ～ 企業価値向上が株価を動かす時代へ

### ① 短観が示す企業の姿

- 設備投資を積極的に計画**  
全規模・全産業で+6.8%、大企業+11.5%  
成長に向けてお金を「使う」姿勢が強まる
- 人手不足が深刻化**  
雇用人員判断DIは▲37  
省力化・DX・人材投資の必要性が高まる
- インフレの定着を見込む**  
企業物価見通しは1年後+2.3%、5年後+2.1%  
デフレには戻らないとの認識が拡大

企業は「成長のために投資する局面」へ

### ② 金融庁が求める方向性

これまでの経営	これからの経営
現金を貯める経営 ・内部留保の積み上げ ・低い資本効率 ・成長投資の遅れ ・株主価値の伸び悩み	現金を使う経営 ・成長投資の拡大 (設備・人材・DX) ・M&Aの活用 ・株主還元強化 ・資本効率の向上

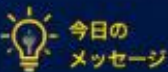
金融庁の方針と、企業の行動変化が一致している

### ③ 下期相場のテーマ

評価される企業が変わる

<b>設備投資</b> 成長投資を拡大する企業	<b>M&amp;A</b> 事業ポートフォリオの強化・再構築	<b>株主還元</b> 自社株買い・増配の拡充	<b>DX・人材投資</b> 生産性向上への投資	<b>資本効率</b> ROE・PBR改善に取り組む企業
----------------------------	------------------------------------	----------------------------	-----------------------------	---------------------------------

AI・半導体だけでなく、  
資本効率とキャッシュ活用がカギを握る



今日のメッセージ

今年後半の日本株は、「いくら利益を稼ぐか」ではなく、「利益をどう使うか」が評価される相場へ。

企業がお金を使う3つの理由

- 1 人手不足の深刻化
- 2 金利のある世界の定着
- 3 資本市場からの要請